

令和5年3月3日横浜清陵高等学校卒業式「校長のことば」

時が経ち社会が変わっても自然の営みは変わることがなく、今年もまた、春が巡ってまいりました。希望と喜び溢れるこの春の良き日に、保護者の皆様のご臨席のもと「第6回神奈川県立横浜清陵高等学校卒業証書授与式」を挙行できます事は、本校にとりまして大きな喜びです。この度の卒業式は、いまだ新型コロナウイルス感染症の終息の気配が見えない中の実施ということで、保護者の皆様を含め、関係者のみで行うことといたしました。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

さて、ただ今264名の卒業生の皆さんに卒業証書を授与いたしました。入学以来のたゆまぬ努力により、ここに所定の課程を修め、めでたく卒業の榮譽を得た皆さんに、心からお祝いを申し上げます。

皆さんは日々の積み重ねの中で、一人ひとりがこれからのよりよい人生を送っていく上で必ず役に立つと思われるそれぞれの「武器」を身に付けたと確信しています。皆さんが本校に入学しようとしていた令和2年の1月、新型コロナウイルス感染症のニュースが飛び込んできました。せっかく入学したばかりだというのに4月から突然の休業措置に見舞われました。その後幾多の学校行事等の中止があったり、行動に多くの制限をかけられたりしてきた中で実に3年の月日が流れました。私は、皆さんの高校生活の学びは唯一無二のものになったと思っております。感染防止に対する考え方や行動は個人の問題ではありませんが、その中でも周囲の大切な人のことを考え、地域社会や日本、更には世界を意識しながら自分の在り方を俯瞰できたのではないのでしょうか。世界と自分を繋げて考える事、そんな思考の過程を経験できたこの3年間は、まさにこれからの社会を生きていく上で必要な「社会を生き抜く力」という武器を携えることができた有用な期間であったに違いありません。その日々の中には、絶えず気遣いながらご家族と周囲の方々が支え、励ましがあつたものと思えます。是非皆さんから、お世話になった方々へ素直に感謝の気持ちを伝えてもらいたいと思えます。

卒業生の皆さんに一つだけ私が日頃大切にしている言葉をお送りします。世界の喜劇王と言われたイギリスの俳優であるチャールズ・チャップリンの言葉です。コミカルな表情や動きで人々の笑いを誘うチャップリンですが、彼には、アルコール依存症の父親、精神病院に収容された母親を持ち、貧困児童対象の施設等を転々とする壮絶な極貧生活を送った苦難の過去がありました。こうした経緯から、彼の作品はドタバタ喜劇に悲劇性を組み込み、ユーモアの影に切れ味の鋭い社会風刺が織り交ぜられていると言われています。そんなチャップリンの言葉です。

You. Il never find a rainbow if you. re looking down.

日本語だと、「下を向いたら虹を見つけないよ」とは絶対にできないよ。」という意味です。多くの苦勞を乗り越えて成功へとたどり着いたチャップリンならではの言葉だと思えます。皆さんはこの先の人生においてきつと多くの苦難が待ち受けていることでしょうか。しかし、下を向かず前を見て歩いていけば、必ず虹を見ることができると思えますし、虹をつかむことだってできるかもしれません。是非、何があっても常に前に向かって歩き続けてください。

最後になりましたが、お子様の限らない成長を願い、常に深い愛情を注ぎ、これまで育んでこられた保護者の皆様に心からお祝いを申し上げます。この3年間、本校の教育活動に深いご理解をいただき、ご支援、ご協力を賜りましたこと、重ねて厚く御礼申し上げます。「ありがとうございます。」卒業生の皆さんの今後の益々のご活躍と、ご多幸を祈念して式辞といたします。

令和5年3月3日 神奈川県立横浜清陵高等学校 校長 蘇武 和成